

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの標準化に関する研究
研究分担者：釜江(繁信)和恵 公益財団法人浅香山病院 精神科 認知症疾患医療センター
精神科部長・認知症疾患医療センター長

(研究協力者：島宏和 林竜太 瀨田麻祐子 勝田紳太郎 松原大輝 中島華菜 山中涼
佐々木陸 小玉桜南 新城美紀 三好豊子 山本朝美)

研究要旨：認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの導入を拒む要因の調査

A. 研究目的

本研究では自宅写真を撮ってもらい、回収した写真から生活を評価する非訪問型の生活評価システム「Photo Assessment(以下、PA)」、患者にあるパソコンやタブレットを Zoom などのオンライン会議システムで病院とつなぎ、画面越しに生活指導を行う「OnlineManagement(以下、O-MGT)」の標準化が目的であるが、これまで開発を担ってきた機関が大学病院である。そのため一般病院の外来認知症患者・介護家族に導入するにあたり、導入を阻害する可能性のある要因を検討した。

B. 研究方法

当科外来に 2023 年 1 月に当科物忘れ外来通院中のアルツハイマー型認知症患者で、訪問看護あるいは訪問リハビリを受けた経験のある患者 (CDR0.5-CDR2) および介護家族連続 20 例(主介護者が 65 歳未満 10 例・65 歳以上 10 例)、訪問看護あるいは訪問リハビリを受けた経験のない連続 20 例(主介護者が 65 歳未満 10 例・65 歳以上 10 例)に PA/O-MGT を実施すると仮定した場合の実施困難な事柄について聴取した。

(倫理面への配慮)

本研究は外来診療の一環として行われ、当院の倫理委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

	訪問看護・リハあり・主介護者65歳未満	訪問看護・リハあり・主介護者65歳以上	訪問看護・リハなし・主介護者65歳未満	訪問看護・リハなし・主介護者65歳以上
自宅の写真を撮って送る抵抗感あり(患者)	2(名)	2	8	7
自宅の写真を撮って送る抵抗感あり(家族)	3	4	7	9
デジタルカメラの使用困難(患者)	9	10	7	9
デジタルカメラの使用困難(家族)	2	7	2	6
オンライン会議システムの使用困難(患者)	10	10	9	10
オンライン会議システムの使用困難(家族)	5	9	6	10

D. 考察

既に訪問看護や訪問リハビリの経験がある患者家族は自宅の写真を撮ることに抵抗は少ないが、未経験の家庭では自宅の写真を撮って提供することに抵抗がある例が多かった。また主介護者が高齢である場合にはオンライン会議システムの使用に困難が予測された。

E. 結論

これまでに訪問看護・訪問リハビリの経験のない患者・家族に PA/O-MGT を実施する場合には、導入時によりその効果も含めより丁寧な説明が必要である。また介護者が高齢である場合にはオンライン会議システムの使用に何らかの支援が必要である。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 繁信和恵, 石川智久, 池田学. 地域包括ケアにおけるリーダーシップ認知症疾患医療センターと地域包括ケア. 月刊老年科, 2022 ; 5(2):107-112.
2. 繁信和恵. 認知症初期集中支援チームの現状と精神科医の役割「高齢者の発達障害」. 老年精神医学雑誌. 2022;33(8) : 781-785.
3. 繁信和恵, 池田学. 認知症におけるとらわれ・こだわりの臨床と対応. 精神科治療学. 2023;38(2):225-231.

2. 学会発表

1. 繁信和恵. 老年期の幻覚妄想と認知症. 第130回近畿精神医学会. 2022.7.9
2. 繁信和恵. 認知症初期集中支援チームにおける精神科医のかかわり. 第24回近畿老年期認知症研究会. 2022.12.10

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし